国語科学習指導案

展開学級　　１年Ａ組
場　　所　　図書室
指導者　　細川　義文

１　単元名（１年）

いにしえの心にふれる～「昔話」として今に伝わる古典物語の世界～

２　単元の目標

○古典作品を読み、さまざまな作品に触れ、友だちとの話し合いの場や発表会を通してものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとする。　（国語への関心・意欲・態度）
○現代に伝わる昔話と古典作品とのつながりを通して、古典には様々な種類の作品があることを知る。　（言語についての知識・理解・技能（１）ア(ｲ)）

３　評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・古典作品を読み、友だちとの話し合いの場や発表会を通して、さまざまな作品に触れ、ものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとしている。	・現代に伝わる昔話と古典作品とのつながりを通して、古典には様々な種類の作品があることを知ろうとしている。（１）ア(ｲ)

４　単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では、古典作品を読んだり調べたりするという言語活動を通して、昔話として現在でも親しまれている様々な古典にふれることをねらいとしている。「中学校学習指導要領解説　国語編」によると、「小学生から親しんできた古典を様々な作品と結びつけることで、古典の世界についての新たな興味・関心を喚起することが大切である。」と記されている。生徒たちは小学校のときに、昔話として様々な作品に触れてきているが、その中には古典作品をもととしているものも多い。教科書に掲載されている『竹取物語』も「かぐや姫」として生徒たちはなじみのある話である。そこで、親しんできた昔話が古典の中にあることを知り、さらに古典作品を読んだり調べたりすることで、古典作品と昔話を比較し、内容の違いや知らなかったことに目を向けることで、生徒たちの「古典の世界についての新たな興味関心を喚起すること」ができると考える。

今回、学習材として、現在も親しまれている物語が掲載されている『古事記』『今昔物語集』『御伽草子』『宇治拾遺物語』を取り上げた。『古事記』には「因幡の白ウサギ」の話、『今昔物語集』には「わらしべ長者」の話、『御伽草子』には「一寸法師」「鉢かつぎ姫」「ものぐさ太郎」「うらしま太郎」の話、『宇治拾遺物語』には「こぶとりじいさん」の話があり、これらの本は本校の学校図書館で古典作品や現代語訳版、絵本、マンガ版などで手軽に手に取ることができるものである。

現在も昔話として親しまれている古典作品に対し、生徒たちは物語の内容や登場人物をある程度知っており、現代まで伝わっていることへの驚きとともに、古典作品に関心を持って触れることができるだろう。岩間は古典学習について「古典への関心をもたせるには、自分たちの日常生活と関連させて指導していくことが効果的である。古典と日常生活とを結びつけることにより、古典が今に根付いていることが実感できるからである。」（岩間正則「古典指導をどのように行うか」『日本語学』明治図書、2007 年 2 月、p25-p26）と述べている。現代に生きる生徒自身と古典作品とのつながりを意識させることが大切だと述べている。そこで、日常の読書生活の中で親し

んだ昔話と古典作品を結びつけることで生徒たちの関心を喚起させる。また、昔話と古典作品の内容を比べたり友だちと意見を交換したり発表会を行ったりすることを学習過程に位置づけることで、生徒たちが興味を持って作品に触れることができるだろうと考え、本学習材を取り上げた。

(2) 本単元で身につけさせたい力

本単元では、生徒たちが「古典には様々な種類の作品があることを知ること。」（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(１)ア(ｲ)）をねらいとしている。

中学一年生が現在使用している教科書『国語１』（光村図書）には、「蓬莱の玉の枝」と題して『竹取物語』の冒頭文、くらもちの皇子が「蓬莱山」の様子を語っている場面、帝の使者が駿河の山の頂上で不死の薬とかぐや姫からの手紙を焼かせる場面の古文が載っている。生徒たちは、かぐや姫が発見される場面（冒頭文）について、絵本や昔話として内容をよく知っているため、あまり抵抗なく古文を音読することができた。しかし、かぐや姫を発見するときに、古文には翁が竹を切る場面がなかったこと、「蓬莱山」や不死の薬と手紙を焼く場面は知らなかったことなど、自分の知っている「かぐや姫」の物語と比べて、その違いに興味を引かれているようであった。

そこで、生徒たちが小学校から昔話として親しんできた物語が掲載されている『古事記』『今昔物語集』『御伽草子』『宇治拾遺物語』を読ませ、自分の知っている昔話と比較して、その違いや知らなかったことを調べさせることで、神話、説話、物語という「様々な種類の作品」に触れさせていきたい。

(3) 学校図書館の利用、学校図書館司書との連携

本年度と昨年度の本校の一年生の学校図書館の貸出冊数の変化は以下のとおりである。

月	昨年度	本年度	変化
４月	３３	１１８	＋　８５
５月	４０	１６５	＋１２５
６月	５８	１５７	＋　９９

非常に増えていることがわかる。

これは小学校から読書に親しむ子どもたちを育んできた結果であるが、中学校でも生徒たちが学校図書館を利用するよう、さまざまな方策を行った結果でもあると考えられる。

まずは、学校図書館指導員が図書館に常駐していることが非常に大きな要因となっている。人が常にいることで、書架の整理はもとより、掲示物の作成や配架の工夫、新刊の案内など、図書館の環境が非常に良くなり、生徒たちが利用しやすい環境となった。４月には学校図書館指導員による学校図書館利用オリエンテーションを行った。学校図書館の利用についてまとめた冊子を用い、図書館での過ごし方、図書配架図、日本十進分類法、貸出の方法や個人カードの書き方などについて、一年生に指導した。その際に図書館指導員による絵本『ぼくをさがしに』の読み聞かせ、授業担当による絵本『ラブユー・フォーエバー』と『わたしのいもうと』の読み聞かせを行った。

また、本校では、給食の時間に放送委員会が昼の放送を行っているが、毎週木曜日には学校図書館指導員が担当するコーナーがあり、季節や学校行事、オリンピック等の世の中の出来事に関連する本の紹介を行ったり、新刊案内をしたりしている。

さらに「図書室だより」を発行し、生徒たちの図書館利用を促している。

本の貸出に関しては、図書委員会の活動として昼休みに行っているが、本年度より図書館の開館時間を多く設けるため、放課後にも貸出を行うようにした。また、本年度より公立図書館と同様に「リクエスト制度」を設け、生徒たちが読みたいと思った本が確実に手元に届くようにした。

このように、学校図書館指導員が図書館に常駐し、生徒たちに利用を促す学校図書館の運営を行うことが、学校図書館利用人数と貸出冊数の増加につながっていると思われる。

本実践を行うにおいても学校図書館指導員に依頼して、本校の学校図書館には昔話として親しまれている古典作品にはどのようなものがあるのか、リストアップした。（資料１、２）それにより、学習材として活用する作品の選定や事前のアンケート項目を設定することができた。また、生徒たちがどのような昔話に親しんでいるのかを調査する「読書に関するアンケート」（資料

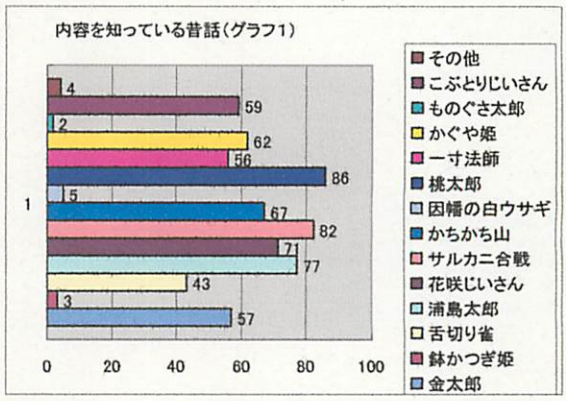
３）を作成する参考として活用した。さらに「団体貸出」の手続きを行い、千葉市中央図書館から資料を借りることで、複数の本の中から生徒が興味ある作品を選ぶことができる環境を整えた。（資料４）

本実践後は、学校図書館に特設コーナーを設け、他の班が紹介した古典作品や現代語訳版、絵本、マンガ版などを手軽に手に取れるようにする予定である。

５　生徒の実態（指導の経緯）

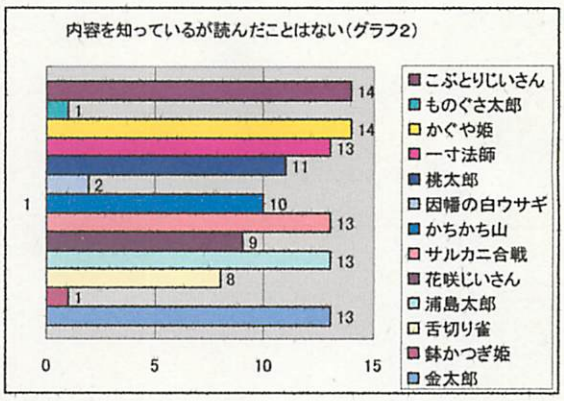
学習を始める前に「読書に関するアンケート」（資料３）を１学年全員（８９名）に行った。

「６．次に挙げる昔話のうち、内容を知っているものに○をつけてください。」という質問に対しては、「桃太郎」が８６名と、ほとんどの生徒が知っていると答えた。次いで「サルカニ合戦」（８２名）「浦島太郎」（７７名）「花咲じいさん」（７１名）と続いている。（グラフ１）他の作品も半数以上の生徒が知っていると答えているが、「鉢かつぎ姫」「因幡の白ウサギ」「ものぐさ太郎」はほとんどの生徒が知らないと答えている。「その他」の本として「落窪姫」「一休さん」「やまんば」「うさぎとかめ」をあげた生徒がいた。



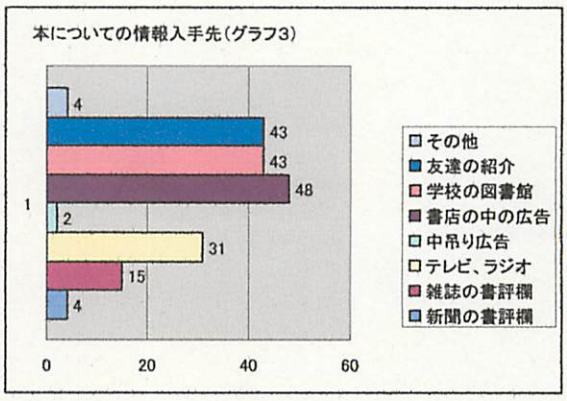
「桃太郎」と「サルカニ合戦」、「花咲じいさん」についてはもととなる古典作品を見つけることができなかったので、本単元では扱わないようにした。一方、「鉢かつぎ姫」や「因幡の白ウサギ」、「ものぐさ太郎」については、知らない生徒が多いので、さまざまな古典作品に触れさせるのにちょうど良いと考え、取り上げることとした。

「７．次に挙げる昔話のうち、本（絵本を含む）を読んだことがあるものに○をつけてください。」という質問に対しても、質問６と同様の結果になっているが、着目すべきは、その数値の差である。質問６と質問７の差を右のグラフ２で示す。生徒たちが内容を一番知っている「桃太郎」では１１名が「読んだことがない」としている。他の作品も１０名程度の生徒が読んだことがないとしている。



今回の実践では、古典作品に触れさせると同時に、日本人に親しまれてきた昔話を実際に生徒自身に読ませることができるのである。

「３．本についての情報はどこから入手しますか。」については、「書店」をあげる生徒が一番多かったが、半数近い４３名の生徒が「学校図書館」をあげている。（グラフ３）学校図書館が利用されていることが分かる。そこで、学習後に学校図書館に特設コーナーを設け、他の班が紹介した古典作品や現代語訳版、絵本、マンガ版などを手軽に手に取れるようにすることで、より生徒たちが古典の世界に触れることをねらいたい。また、「友達の紹介」と答えた生徒も４３名おり、普段から本について友達と交流していることが伺えるので、学習過程の中に他の生徒と古典作品についての意見交換、交流、発表の場を設け、さらに生徒たちが古典の世界に触れる機会としたい。



生徒たちは小学６年生のときに「枕草子」の冒頭文を学習している。音読を繰り返し行い、暗唱を行っている。そのため、「やうやう」を「ようよう」と読むなど、歴史的仮名遣いを現代仮

名遣いに直して読むことを理解しており、古文の音読には抵抗なく取り組む生徒が多かった。今回の学習で、さらに古典に対する興味・関心、言葉の力を伸ばす機会としたい。

6　単元指導計画（全９時間扱い）

時	学習内容と活動	指導や支援の手だて（◇は評価）
1 2 3	○学習のねらいや進め方を知る。 いにしえの心にふれよう～古典作品を読み、昔の人々の考え方を知る～	・昔話として親しまれている古典作品について、読んだり調べたり班で話し合ったりしたことを発表し、紹介した本を読んでもらうというねらいを伝える。 ◇ねらいをつかむことができる。（観察）
	○『竹取物語』をはじめ、さまざまな古典作品が昔話として古くから親しまれてきたことを知る。	・古典作品は『古事記』『今昔物語集』『御伽草子』『宇治拾遺物語』で、学校図書館にある本であることを伝える。
	○教科書教材「蓬莱の玉の枝」を読んで、大まかな内容をつかみ、原文を音読・暗唱するとともに、現代語訳を読むことで、『竹取物語』の世界に触れる。	・歴史的仮名遣いや古文独特の言い回しに注意して音読し、現代語訳をもとに内容が理解できるようにする。 ◇歴史的仮名遣いなどに注意し音読したり、内容を理解したりすることができる。（観察、音読）
4 5 6 7	○『竹取物語』についての教師の発表を聞き、これからの学習について見通しを持つ。 ・友だちに古典作品に触れてもらうため、班で古典作品について調べ、発表会を行う。 ・調べる古典作品 『古事記』「因幡の白ウサギ」 『今昔物語集」「わらしべ長者」 『宇治拾遺物語』「こぶとりじいさん」 『御伽草子』「一寸法師」「うらしま太郎」 「ものくさ太郎」「鉢かつぎ姫」	・『竹取物語」を使い、生徒たちが何を調べ、どのように発表すればよいかイメージできるように、発表例を示す。（資料５） ◇これからの学習についてイメージできる。（観察）
	○古典作品を読んで、内容をつかむ。 ・学校図書館にある古文、現代語訳、絵本（資料６、７）や「団体貸出」の本（資料４）など、複数の本を読み、以下の項目について考える。 ☆面白いと思ったこと。 ☆不思議だと思ったこと。 ☆なるほどと思ったこと。 ☆他の人の意見を聞きたいと思ったこと。 ☆新たな発見。 ☆他の人に教えたいと思うこと。	・考えたり思ったりしたことをワークシートに記入させる。（資料８、９） ◇古典の内容をつかみ、作品について考えたり思ったりすることができる。（観察、ワークシート）

	☆昔話と古典作品との内容などの違い。 ☆作品の主題について。 ☆昔の人の思いや考え方 ○班で意見交換し、発表する内容を検討する。 ・発表を聞いて、自分たちの推薦する古典作品を読みたいと思ってもらうために、どのように発表すればよいか考える。	・『御伽草子』の「鉢かつぎ姫」を生徒たちに紹介し（資料 10 ～ 13)、発表の仕方を、再度確認する。 ・自分の考えが述べられるようにワークシートを活用させる。 ・聞く人が知らないであろうと思われること、昔話として知っていることと違うことなどを中心に考えるように伝える。 ◇発表会に向けて、自分の意見を出し、話し合いをすることができる。(観察)
8（本時）	○発表会を行う。 ・他の班の発表を聞き、他の古典作品に触れるとともに、読書意欲を持つ。	・自分たちの伝えたいことが聞く人に伝わるように意識しながら発表させる。 ・他の班の発表を、興味を引く部分について考えながらしっかりと聞きくように話す。 ◇他の人に伝えたり、しっかりと聞くことができる。(観察、ノート)
9	○学習の振り返りを行う。 ・「学習を終えて」という題でノートに学習を振り返って考えたり思ったりしたことをまとめる。	・自分の考えたり思ったりしたことを読む人にわかるように書くことを話す。 ◇相手意識を持って振り返りを書くことができる。(ノート) ◇古典の世界に触れることができる。(ノート) ◇発表された古典作品を読もうとする。(事後観察、貸出カート)

7　本時の目標と展開

(1) 本時の目標

・発表会を通して、さまざまな作品に触れ、ものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとする。
（国語への関心・意欲・態度）

・発表会を通して、様々な古典作品に触れることができる。
（言語についての知識・理解・技能(１)ア(ｲ)）

(2) 本時の学習活動

本時では、自分たちの班が調べた古典作品について発表を行い、また、他の班が調べた発表を聞くことを行う。このことにより、古典の世界に触れ、ものの見方や考え方を広げたり、読書に親しもうする態度を育成したりすることをねらいとしてる。

(3) 本時の展開（８／９時間）

		主な学習内容と活動	指導や支援の手だて（◇は評価）
導入	5	○発表会の目的と内容について再確認する。 いにしえの心にふれよう～古典作品を読み、昔の人々の考え方を知る～	・他の発表を聞いて古典の世界に触れ、読書への意欲へとつなげていくことを確認する。

展開	42	○発表会を行う。 ・一班から順に行っていく。 一班『御伽草子』「ものぐさ太郎」 二班『宇治拾遺物語』「こぶとりじいさん」 三班『御伽草子』「うらしま太郎」 四班『古事記』「因幡の白ウサギ」 五班『今昔物語集』「わらしべ長者」 六班『御伽草子』「一寸法師」 ・発表の仕方 ☆発表時間は六分。 ☆古文や現代語訳を音読する。 ☆必ず全員が発言するようにする。 ☆紹介する本を示しながら行う。 ☆みんなに見せる絵や言葉をＡ４の紙に書いても構わない。 ・他の班が紹介する古典作品はどのような内容なのか、知っていること違うことや知らなかったことはないか、考えながら聞く。 ・昔の人々がどのようなことを考えたり思ったりしているか、発表を聞いて知る。	・スムーズな進行を心がける。 ・発表する姿勢、聞く態度に気をつけさせる。 ・自分たちの伝えたいことが聞く人に伝わるように意識しながら発表させる。 ・他の班の発表を、内容や興味を引く部分について考えながらしっかりと聞きくように話す。 ◇様々な作品に触れることができる。（観察）
まとめ	3	○学習の振り返りを行う。 ・次回「学習を終えて」という題でノートに学習を振り返って考えたり思ったりしたことを以下の観点でまとめることを知る。 ☆自分たちが発表した古典作品について読んで発見したり改めて思ったりしたこと。また、友だちと話し合って発見したり改めて思ったりしたこと。 ☆他の発表を聞いて発見したり改めて思ったりしたこと。 ☆昔の人の考えや思いに触れて考えたり思ったりしたこと。 ☆自分で読んでみたいと思った古典作品はどれか。 ○様々な種類の古典作品についてさらに知る。 ・学校図書館だけでなく、公立図書館の利用について知る。	・発表を聞いて、自分で読んでみたい、他にはどのような話があるかなど、古典作品について考えたことを具体的に書くように話す。 ◇ものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとする。（ノート） ・中央図書館の団体貸出や学校図書館指導員の個人貸出（資料 14 、15）を例に挙げ、様々な古　典作品を読むために、公立図書館を利用することを紹介する。

(4) 資料・見本等

・参考文献　岩間正則「古典指導をどのように行うか」『日本語学』明治図書、2007 年 2 月、p25-p26

・資料・見本等　後付資料参照